

山手線（やまのてせん）の正式な線区（戸籍のようなもの）は、田端～（池袋～新宿～渋谷）～品川です。品川～東京間は「東海道本線」、東京～田端間は「東北本線」が正規の線区名です。その田端～品川間の山手線は、まさに「山の手」に線路が敷かれています。

山の手（武蔵野台地）は、その東端で神田川、渋谷川、目黒川、それにその支流（たとえば音羽川、小石川）で浸食され、枝状に分断されています。これを「舌状台地」といいます。田端～品川間（新宿回り）の山手線は、その舌状台地とそれらに挟まれた「浸食谷」のつくる、非常に複雑な地形を貫いています。「地形陰影図」や「色別標高図」でもある程度はわかるのですが、私は3Dプリンターで地形立体模型をつくってみました。

青が水路（海や川の河口付近）、緑が低地（埋立地、東京低地、浸食谷の底）、黄色が段丘崖（低地と台地の境界）、茶色が台地です。山手線の駅を白い円柱で表現してみました。円柱の上面は同じ高さ（標高30m付近）に設定したので、円柱が長いほど「標高の低い駅」ということになります。

浸食谷に位置する大塚駅、高田馬場駅、渋谷駅などは標高が低く、台地に位置する池袋駅、原宿駅などは標高が高いとわかります。品川～東京～田端はずっと東京低地で、ほぼ起伏はありません。完成作品を見て、新宿駅が山手線で一番標高が高い駅とわかりました。東京の地形学習に役立ちそうです。

